



実習室の機器(生徒機の上に教員モニタ)

活用場面

一斉学習

教師による教材の提示

個別学習

個に応じた学習

思考を深める学習

表現・制作

協働学習

発表や話し合い

活用した機器等

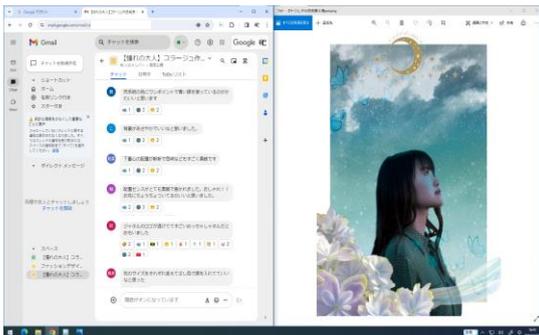
Windows PC

活用したアプリ等

Photoshop

Google チャット

Google Forms



教員モニタ(左:チャットによる相互評価、右:生徒作品)

学習のねらい

画像編集技術と知的財産権について学習したことをふまえ、自分が考える「憧れの大人」のイメージをコラージュとして制作し、プレゼンテーションを行う。さらに、プレゼンテーション後に生徒たちの相互評価をもとに自身の作品をブラッシュアップすることを通して、目的や意図に応じた工夫について考え、それを実現する操作技術を習得できるようにする。

学習の流れ

導入

- ・イメージコンセプトの制作を行い、コラージュの方法、Photoshopの操作方法について学習する。
- ・Photoshopを用いて「憧れの大人」をテーマにしたコラージュを制作する。



自分の考えを形成する

展開

- ・自身が制作したコラージュ作品をプレゼンテーションする。
- ・それぞれのプレゼンテーションについて、相互評価を行う。
- ・『良かったと思う作品』や『プレゼンテーションから参考になった点』などをGoogle Formsで入力する。



思考を表現に置き換える

まとめ

- ・投票結果の多かった作品を全員で振り返り、作成者が行った操作技術などを再確認する。
- ・確認した操作技術の内容をもとに自身の作品をブラッシュアップする。



振り返って次へつなげる

ここでICTを活用!(実演場面)

・コラージュを制作するため、Adobe Photoshopを利用した。

・クラスメイトのプレゼンテーションに対して、Googleチャットのコメント機能を用いてリアルタイムに作品を相互評価した。

・クラスメイトが評価したコメントに対して、さらにリアクション機能を用いて共感したりする等の意思表示を行った。

・Google Forms を利用した振り返りシートで、投票等を行った。

・クラス内で評価の高かった作品や、自由記述の内容を基に自身の作品をブラッシュアップした。

活用のメリット、実践の工夫・振り返り等

生徒が作品のプレゼンテーションをする際は、教員モニタに発表者の作品とGoogleチャットの画面を左右に並べて表示させた。そうしたことで、聞き手側は作品を見ながら他のクラスメイトの評価も確認することができた。その結果、自分には気付くことができなかった作品に対する視点を全体で共有できた。そのためプレゼンテーション後に実施したGoogleフォームの回答における評価コメントが質・量ともに向上した。結果としてクラスメイトから多数のアドバイスをもらうことができ、作品のブラッシュアップにつながった。